



自分が納得するということ

3年ぶりに合唱コンクールが開催でき、全校揃って発表できたことは大変喜ばしいことでした。

合唱コンクールのスローガンには、魂を込めて合唱を創り上げるという意味が込められていました。「魂をこめる」とは、妥協せず**自分が納得するまで、いいものを創り上げる**ということです。

職人の世界でいう匠の技もまさに妥協することなく、自分が納得するまで努力して仕上げるイメージです。それほど、「**本気**」の**気持ち**を入れて取り組む意気込みが感じられるスローガンでした。

では、「自分が納得する」とはどのようなことでしょうか。

「納得する」とは、言行をよく理解し、もっともだと認めること。
(新明解国語辞典)

つまり、自分の言動についてもっともだと認めるということです。わかりやすく言うと、「自分が満足するまで努力する」ということです。

合唱コンクールでは、クラスみんなで一生懸命に練習した努力が実り、すばらしい合唱に仕上がりました。賞という結果ではなく、みんなで努力した過程を大切にしてほしいと話しましたが、どうだったでしょうか。リハーサルから本番までの変容ぶりはとても大きく、「魂を込めて」練習したのだと感じました。

本番で歌い終わったとき、「歌い切った」と感じられた人は、きっと達成感、充実感、そして満足感を味わえたことでしょう。

練習の時は、きつく感じてゆるい気持ちで歌っていたが、今思うと



もう少し頑張っただけよかったと思う人もいるかもしれません。もう少し頑張れたと思う人は、自分が納得できる取組姿勢ではなかったと言えます。

好きなことには、自分が納得するまで努力できるものですが、苦手なことには、もうやめようという気持ちが大きくなり、あきらめてしまいやすいものです。

満足していないのに、あきらめて努力することをやめてしまうと後悔することになります。自分が納得するまで努力したその先には、必ずいいものが仕上がります。

皆さんは、自分が納得するまで努力していますか？

自分と対話すること

10月14日から、教育実習第3弾、英語科の実習生が本校で実習に取り組んでいます。2年生の家庭科の授業で「きゅうりの切り方テスト」のお手伝いをさせていただいた方で、あの時もきびきびとすがすがしい動きで感心しましたが、毎日熱心に実習に励んでいます。本校での実習終了後は、来春から晴れて正規教員として勤務校に着任するまで、準備に追われることでしょう。夢がかなうその時が直前までできています。ここまでくるには、並々ならぬ努力をしてきたことでしょう。

信念をもって、こつこつと地道に努力することができる人が、夢をかなえられるのです。努力は裏切りません。そして、夢は追いかけるものではなく、つかむものです。

さて、期末考査まで、20日前となりました。皆さんは、中間考査の振り返りをした時に、自分の学習への意欲、取り組み方、計画の立て方、実行力等「自己分析」をどれだけ真剣にしましたか。

成果や課題を明確にし、その結果に至った過程をしっかりと振り返ることが重要です。そして、改善する為に必要なことは何かを考え、いろいろ試してみることで、定期考査や進路決定に生かされます。

繰り返しになりますが、皆さんは、1年後、3年後、5年後にやりたい自分について考えてみましたか？期末考査後は、三者面談も控えています。有意義な時間にするためにも、自分とじっくり「対話」してみてください。



1年後の自分はどんなになっていたいの？

行ける学校

行きたい学校

がんばれ自分！がんばる時は今

開校50周年に寄せて



去る10月26日に開校50周年記念式典が挙行されました。西東京市長、教育委員会教育長、市議会議長を始め、ご来賓や地域の方々にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます

50年という年月を経てきた柳沢中学校の歴史をひもとくとき、昭和47年の創立以来、多くの方々からいただいた数々のご支援、お力添えに感謝の念を抱かずにはいられません。常に柳沢中学校を理解し、ご協力いただいた保護者・地域の皆様、いつも全面的にご支援をいただいている教育委員会をはじめとする関係諸機関、この学び舎を築立っていった卒業生や教職員の皆様方に温かく見守られ、晴れの日を迎えることができました。

本校では、これまでの伝統を受け継ぐとともに、グローバル化、AIの活躍そして新型コロナウイルス感染症など急激に社会が変化し、予測困難な中で活躍できる生徒の育成を目指し、4つのキーワード「挨拶」「対話」「尊重」「創造」を掲げ、よりよい社会の担い手となる力を身に付けることを目指しております。

さらに「コロナと共に生きる」世の中への変化を前向きに受け止め、今までになかったことを創り上げていく「創造力」が必須になってきています。まさにこれは、本校の教育目標にもある、「広い視野」をもつことが大切です。

この夏、3年生に20年後の柳沢中学校や柳沢地区がどのようなになっていたかを書いてもらいました。「地域の人から愛される学校」「地域の方のためにボランティアができる学校」「地域の代表となるような笑顔と思いやりのある学校」といった地域を意識した声が多くあり、実に嬉しいです。

改めて、生徒の皆さんに期待したいことは、変化の激しい時代においても、相互理解に基づく視点を大切に、工夫や創造しながら、お互いに理解・受容・尊重し、地域や国際社会の中で、よりよく共生していくという気持ちをもつことです。そして、**自分の考えや意見をしっかりもち、自分のよいところを生かして生きていく力をさらに高めていくことを期待しています。**

伝統の上に今があり、その今の連続の先に未来があります。在校生の皆さんは、この輝かしい伝統ある柳沢中学校の継承者です。本校の諸先輩方が築かれた歴史と伝統に誇りを持ち、次の時代へ向けて新たな決意で、百周年への礎を刻んでいってほしいです。

本校の西門には、毎春美しいピンク色の花を咲かせる八重桜が立っています。この木は、半世紀もの間、今や七千人を超える卒業生と柳沢中学校の生徒たちを見守ってきました。そして、これからも柳沢中学校が、この先80年、100年と益々発展していくさまを見守り続けていくことをとても羨ましく思います。生徒や卒業生がよりいっそう活躍し、将来的にまたこの柳沢地区を「心のふるさと」として戻ってきてくれたら嬉しいです。

結びに、改めて本校の歴史や伝統に思いを馳せるとともに、これまで以上に生徒や保護者、卒業生や地域の皆様の期待に応えられる教育を教職員一同、推進してまいります。今後とも本校の教育活動に、ご理解とご支援を賜りますとともに、皆様のご多幸を祈念申し上げます。

新生生徒会



「新生柳沢中生徒会」が発進しました。9月の生徒会選挙を経て、10月3日の朝礼で任命式を行いました。先日の東京老人ホームからの花の寄せ植え贈呈式では、生徒会長から心のこもったお礼の挨拶もあり、今後の柳沢中のNewリーダーたちとしてのたのもしかったです。

皆さんも協力して、さらに皆が居心地良い柳沢中にしましょう。



西門が正門になります

開校50周年を迎えたことを機に今まで「西門」と呼んでいましたが、今後は、「正門」となります。

その正門には、保谷第二小学校の児童の皆さんを始め、地域の皆様からいただいたお祝いの花の寄せ植えて華やかに賑やかになっています。とてもありがたいことです。



